

令和3年9月17日

報道関係者各位
プレスリリース

株式会社さ・え・ら書房

銚子市を舞台とした創作読みもの
「#マイネーム（ハッシュタグ・マイネーム）」を刊行

児童図書出版社のさ・え・ら書房（東京都新宿区）は、2021年9月17日（金）に、銚子市を舞台とした小学校高学年から中学生向け読みもの「#マイネーム（ハッシュタグ・マイネーム）」を発売いたしますので、お知らせいたします。

本作品は、中学一年生の主人公たちの「名前」をめぐる物語です。親の都合による改姓や、親の過度な期待が込められた名前、夫婦別姓、外国人の日本式通称名の使用など、自分の名前にそれぞれの不満を抱える子どもたちが、SNSのスレッドをきっかけにして、大人たちに反旗をひるがえします。海とキャベツ畑が一体となった銚子の風景が随所に描かれ、銚子の方々にご指導いただいた登場人物たちの銚子弁がストーリーを盛り立てます。本作品の世界を、実際の場所に重ねながら、より身近なものとしてお楽しみいただけます。

本作は、書店、ネット書店、または電子書籍にてお買い求めいただけます。また、地元の小中学生をはじめ多くの市民の方々に読んでいただきたいと考え、本書籍を銚子市内の小学校、中学校および公共図書館へ寄贈させていただきます。

以上



添付資料：あらすじ及び作者情報

本件に関するお問合せ先：

広報担当 浜本光志

TEL 03-3268-4261

FAX 03-3268-4262

E-mail hamamoto@saela.co.jp

WEB <https://www.saela.co.jp/>

※見本をご希望の方はお申し付けください。

作者 黒川裕子

判型 四六判上製 232頁

対象 小学生高学年から

定価 1540円（本体1400円＋税10%）

ISBN978-4-378-01558-3

添付資料

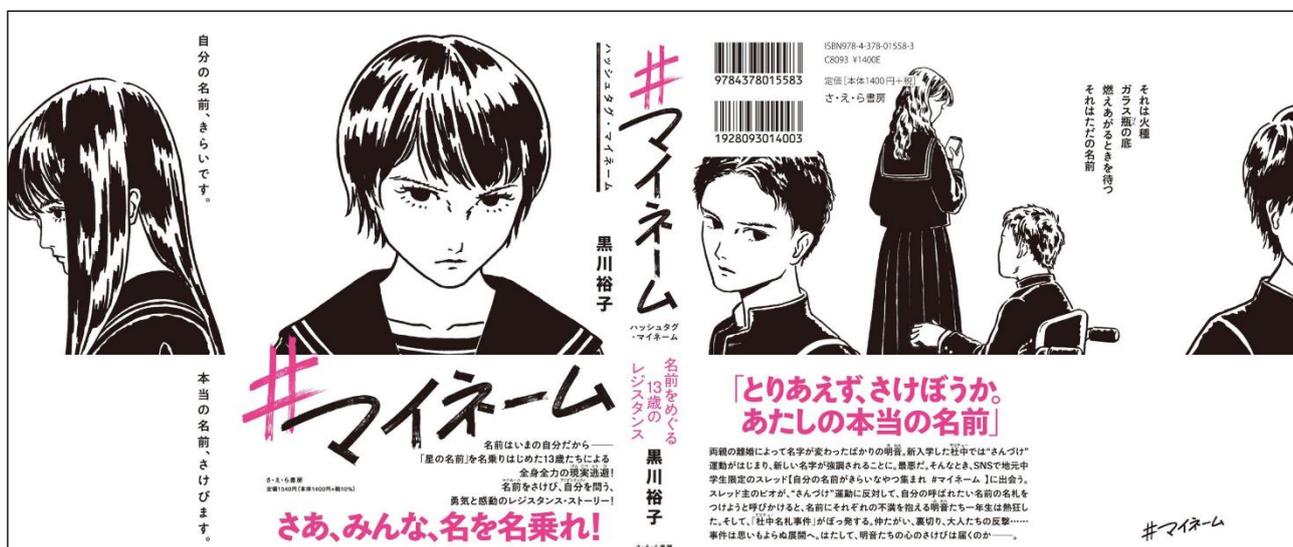
【あらすじ】

海とキャベツの町、千葉県銚子市にくらす中学一年生の明音（みおん）は、この春、両親の離婚によって名字が変わった。新入学した杜中（モリチュー）では“さんづけ”運動がはじまり、新しい名字が強調されることに。もう最悪だ。

そんなとき、SNSで、地元中学生限定のスレッド【自分の名前がきらいなやつ集まれ #マイネーム】に出会う。スレッド主のピオが、“さんづけ”運動に反対して、自分の呼ばれたい名前の名札をつけようと呼びかけると、名前にそれぞれの不満を抱える明音たち一年生は熱狂した。そして、「杜中名札事件」がぼっ発する。

仲たがい、裏切り、大人たちの反撃……事件は思いもよらぬ展開へ。

はたして、明音たちの心のさけびは届くのか――。



【作者情報】

作 黒川裕子（くろかわ・ゆうこ）

大阪府生まれ。京都外国語大学学士、エディンバラ大学修士。2017年に第58回講談社児童文学新人賞佳作入選、『奏のフォルテ』でデビュー。小学生向けから中高生向けまで、幅広いテーマの児童書を執筆している。おもな作品に『天を掃け』『となりのアブダラくん』『いちご×ロック』（すべて講談社）などがある。千葉県市川市在住。